

YouTube チャンネル「フィンランド語との対話から考える」
「Ⅱ. Oodi 図書館の絨毯をきっかけに」概要
(2026年3月以降に公開開始の予定：吉田欣吾)

●YouTube チャンネル「フィンランド語との対話」について

このチャンネルでは、フィンランド語を学習するための動画を公開しています（以下の「再生リスト」があります）。

- I. フィンランド語学習講座の再生リスト（文章を読みながら学習する講座）
- II. フィンランド語文法に関する再生リスト（文法説明のみ行う動画）
- III. フィンランド語のテキストを読む再生リスト（文章を読みながらフィンランド語を学習し、さらにフィンランドについて考える動画）

●チャンネル「フィンランド語との対話から考える」について

サイト「フィンランド語との対話」でさまざまな資料を公開しています (<https://yoshidakingo.com/>)。今回公開を始めるYouTube チャンネル「フィンランド語との対話から考える」では、同サイトのI～Vで公開している資料の一部について、解説動画を公開していきます。

「フィンランド語との対話」で公開しているフィンランド語学習用の動画よりもかなり小さな文字で書かれた資料を使用していきます。そのため、スマートフォンではとても見づらいものになると思います。

● 「再生リストⅡ」について

『フィンランド語の世界を読む』の10課で Helsinki の Oodi 図書館を取り上げました。その Oodi 図書館のホームページ [<https://oodihelsinki.fi/>] で「Mikä Oodi?」>「Taide」と進むと多くの芸術作品が掲載されています。そのページで見ることのできる7つの Taidematot 「芸術絨毯」をきっかけにして作成した資料を、サイト「フィンランド語との対話」の「Ⅱ」で公開しています。

1. おとぎ話の絨毯—ついでに「歩く好奇心」についても少し
2. *Kalevala* —叙事詩に祝日を捧げる国フィンランド
3. フィンランド語文学の父—Aleksis Kivi は今でも「生きている」

4. 不公正と闘った作家—「火を噴く」 Minna Canth
5. 推理小説に歴史小説にと忙しい—映画でも見られる Mika Waltari
6. 哲学書か児童文学か—Tove Jansson とムーミン
7. 大臣や大学教授のどこが偉い?—言葉と生きた Pentti Saarikoski

YouTube チャンネル「フィンランド語との対話から考える」内の「再生リストⅡ」では、**上記資料の一部について**、解説動画を公開していきます。